

ここに注目！



子育て支援と食を通じた多世代交流施設の整備

ポイント

商店街の方向性を「地域コミュニティ機能強化による商店街活性化」と位置づけ、託児施設や不足していた食の業種を取り入れた多世代交流施設を整備。地域コミュニティの醸成と買い物弱者対策に取り組んでいる。

[現状分析及び課題抽出]

Plan

地域コミュニティ強化による活性化

買回品業種が多く、中・遠距離からの来街者が多い。近隣に高齢化した居住地域が広がり、日常利便業種が不足、食料品店の空白地帯もある。平日は通勤・通学者が多いが休日は閑散とし、気軽に立ち寄れる憩いの場が不足していた。課題は主に4つあり、①買い物弱者への対応・環境づくり、②多世代交流のコミュニティ機能と地域連携強化、③中山間地との農商工連携等の促進、④省エネ社会対応の街路環境整備と住み続けられる仕組みづくり等であり、「地域コミュニティ機能強化による商店街活性化」をテーマとする活動を推進している。

[対応策の優位性]

Do

食を通じた交流拠点、地域との連携事業

食を通じた多世代交流拠点「こむ・わかさ」で食料品提供機能を整備、「若桜往来マルシェ」による新鮮な農産品等の販売及び中山間地との交流、朝市「こむ・プチマルシェ」、「逸品マルシェ」を開催している。また、「こむ・わかさ」内に、交流空間「キッズスペース」、「ふれあい交流スペース」などを整備、「ふれあい講座」、地元公民館などとの連携による「せんきょう文化祭」、地元小学校との交流事業を実施している。

[効果の評価及び改善策]

Check-Action

交流拠点から広がる商店街全体の活性化

「こむ・わかさ」は食の業種で地域の生活利便性を高め、コミュニティスペースやキッズスペースは、親

基本データ

若桜街道商店街振興組合

所在地:鳥取県鳥取市戎町

人口:約19万人(鳥取市)

会員数:87名

店舗数:64店舗(買回品小売店30、最寄品小売店6、飲食店7、サービス店9、その他12)

商店街の類型:地域型商店街

主な客層:高齢者、主婦、会社員

商店街概要

若桜街道商店街は、JR 鳥取駅から鳥取県庁へ向かう目貫通りである若桜街道(国道53号線)に位置し、北側には、行政庁・病院・高校、鳥取城跡、歴史文化施設等が集積している。昭和27年の鳥取大火により、市街地全域は壊滅状態にあったが、その後、街路を防火建築帯として復興再生した。昭和38年に若桜街道商店街振興組合を設立、昭和45年にアーケード敷設を行うなど、地元住民や来街者が安心・安全に利用できる利便性と回遊性のある通り環境を提供してきた。総延長約830mの市内最大のアーケード街であり鳥取市の商業環境を印象付ける重要な商店街である。



総延長約830mの鳥取市内最大のアーケード街

子連れや学生、地域の高齢者など多世代の憩いの場、交流の場となっている。「こむ・わかさ」来館者数は目標を大きく上回り、商店街利用度も向上。また、施設運営が若手経営者(テナント入居事業者)の成長に寄与している。さらに、周辺に若い商業者の開業もあり、商店街全体の活性化が図られている。

歴史的につながりがある中山間地等の野菜や手作りの食品等を生産者が直接販売することで、商店街

（まち）と中山間地（むら）の地域間交流が図られている。

小学校児童への商店街体験授業の実施、七夕まつりでの飾りつけ作業などを通じて子どもたちがまちに関わり愛着を育む活動を行っている。「せんきょう文化祭」はコミュニティの担い手としての役割を強化している。

【実施体制等】

幅広い主体参加の運営委員会

「こむ・わかさ」は商店街からノウハウを持った核テナント事業者へ委託し、健全に運営されている。「こむ・わかさ運営委員会」（自治会、市、中小企業団体中央会、税理士等）により、地域と連携しながら事業に取り組んでいる。また、中山間地を含む「若桜往来シーズン・マルシェ協議会」を設立し、商店街と連動して企画・運営、まちむら交流の体制を築いている。

また、女性会が地元農産物を使ったオリジナル商品を開発、若桜往来マルシェで継続的に販売している。交流スペースでは、プリザーブドフラワー教室等の「ふれあい講座」を女性会が中心となり開催している。さらに、商店街のおかみさんや女性経営者のまちづくりレディースと市商店街連合会が主体となり「まちゼミ」や「七夕まつり」を実施している。



食を通じた多世代交流拠点「こむ・わかさ」



キーパーソン

若桜街道商店街振興組合
理事長 山縣 勇太郎



多様な世代の交流拠点として

平成23年7月、鳥取県下では初となる「地域商店街活性化法」の認定を受けた商店街活性化事業も5年目を迎えました。核事業である「食を通じた多世代交流拠点」の施設として平成24年3月に開業した「こむ・わかさ」は3周年を迎え、地域住民・商店街組合員にも好評で、来店客数は1日あたり300人以上、年間では10万人以上の集客・売上げを維持しています。特に、従来は平日よりも商店街への来街者が減る傾向にあった休日の集客数、売上高が安定的に推移していることは嬉しい限りです。要因としては、テナントの経営努力もありますが、なんと言っても地域の皆さんからご支持を頂いていることが大きいと考えます。店内のコミュニティスペースは談笑するお年寄り、ファミリー、学生などの姿が日常の光景となっています。

一方、野菜コーナーの売れ行きが芳しくないことから、これまでに中小企業団体中央会、商店街振興組合連合会の協力を得て「朝市」を実施したほか、

昨年は「高知の逸品マルシェ」を実施し、予想以上の売上げとなりました。この度、オープン3周年の記念イベントとして「四国の逸品マルシェ」を企画検討中です。活性化事業のもう一つ柱である中山間地との交流を目的とした「若桜往来マルシェ」は、回を重ねて11回となり、地域にすっかり定着しています。

地域に必要とされる商店街へ

昨年8月には初めての試みとして、地元の小学校、自治会、地区公民館の協力を得て「せんきょう文化祭」を開催し、商店街と地区住民の交流をはかりました。地元因州和紙を使った小学生の折り紙作品の展示や、ステージイベントとして伝統芸能因幡の傘踊り、民謡貝から節の披露、公民館サークルのコーラス、ダンス、謡曲、ピアノ演奏など、盛り沢山で大いに盛り上がりました。

さらに、今年は「アーケード改修事業（LED照明化）」も完了し、すでに設置している防犯カメラと併せ、これまで以上に明るい、安全・安心、環境にやさしい商店街となりました。

「国道沿いのアーケードを挟んで長く連なる商店街をどのようにしていくのか？」答えはなかなか出ませんが、課題解決のための取り組みを一つ一つ積み重ね、近隣の商店街などとも助け合いながら5年、10年と存続していきたいと考えています。